



様式第4号（第7条関係）

令和 2年 2月 14日

東かがわ市議会議長  
橋本 守 様

東かがわ市議会議員  
(個人)  
氏名 渡邊 堅次



行政視察等報告書

1	日 時	令和2年1月31日～2月2日	
2	参加者	渡邊 堅次	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		全国町並みゼミ川越大会	埼玉県川越市内
		川越都市観光シンポジウム	ウエスタ川越新宿町 1-1-17
		足袋蔵のまちづくりミュージアム	埼玉県行田市行田 5-15
4	研修・調査内容	別紙参照	
5	研修成果	別紙参照  (感想・今後の取り組み等)	
6	費 用	¥ 52,000-	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

# 視察研修報告書

報告者 東かがわ市議会議員

渡邊 堅次

- 1 視察研修日程 令和2年1月31日（金）～2月2日（日）
- 2 視察先
  - ・第42回全国町並みゼミ川越大会
  - ・足袋蔵のまち行田
- 3 目的 町並みに保存に対する全国それぞれの町の抱える課題を題材に、事例を交えながら解決策を模索するため
- 4 視察内容

## 【全国町並み保存連盟と全国町並みゼミ】

全国町並み保存連盟は、1974年（昭和49年）に「今井町を保存する会」（奈良県）、「妻籠を愛する会」（長野県）、「有松まちづくりの会」（愛知県）という3つの住民組織によってスタートした団体です。「町並みはみんなのもの」を合言葉に、「郷土の町並み保存と、より良い生活環境づくり」をめざして活動を続け、2003年（平成15年）に特定非営利活動法人に認証、現在、団体会員は67、個人会員170人が参加しています。

活動の大きな柱である「全国町並みゼミ」は加盟団体の持ち回りで、1978年（昭和53年）に第1回を開催して以来、途切れることなく、今回の川越大会で42回を数えます。町並みに思いを寄せる住民や専門家などが全国から集い、各地区の住民団体が受け入れ元となり、自治体等と協働しながら、それぞれの町の抱える課題を題材に、全国の事例を交えながら解決策を模索する大会です。

## 【第1日】令和2年1月31日（金）

### 1) 伝統的建造物群保存地区川越の現状

平成11年の重要伝統的建造物群保存地区選定以降、町並み整備が進んだ反面、町の様相は大きく変化した。観光客は増大し、空き店舗の活用が進むものの古くからの個人商店は減少し、川越らしさは失われつつある。この間国の制度も、景観法や通称歴史まちづくり法の制定、登録有形文化財や文化的景観などの文化財保護制度の拡大など、充実してきた。

川越でも、歴みち事業や景観条例による建物保存、旧鏡山酒造や旧川越織物市場の保存活用、そして、通称歴史まちづくり計画の認定などの整備は進んでいる。一方、クリアモールの完成や中央通り線の拡幅、ウエスタ川越をはじめ

とする川越駅西口の整備など、現代の顔づくりも進んでいる。

一見、伝統と現代がうまく発展してきたように見受けられるが、新たな課題や積み残されているものも多い。来訪者が増えたことにより観光の目的と質は変化し、人と車が交錯する交通問題は深化した。伝統技術の継承は深刻で所有者側の課題による伝統的建造物の除却も進んでいる。これに加え、人口減少高齢者化により、町並の継承そのものが危ぶまれる状況にある。

## 2) 分科会 「歴史的建造物の活用と地域社会の関わり」

～リノベーションの展開をいかに地域価値の向上につなげるか～

### ◎コーディネーター

佐久間康富 (和歌山県大学準教授)

### ◎パネリスト

時岡 壮太 (株式会社デキタ代表取締役・若狭熊川宿)

竹村 光雄 (長浜まちづくり株式会社)

荒木 牧人 (株式会社 80%代表取締役)

### ◎概要

建物を活用しようとしている人たちと地域の自治組織やまちづくりに取り組んでいる人たちなどとの関係に焦点をあて、地域社会のつながり方・つなぎ方、地域展開への工夫などについて議論しました。

【第2日】令和2年2月1日(土)

## 1) 川越都市景観シンポジウム

テーマ 『歴史都市を活かしたまちづくり』

～イタリアとの比較とこれからの日本・川越～

講演者 陣内 秀信 (法政大学工学部建築学科教授)

イタリアとの比較とこれからの日本・川越では、歴史的都市の再生が劇的に進むイタリアの豊富な事例を通して、日本との多くの共通点を指摘するとともに、日本の町並みでも、商業施設としてだけでなく、よりクリエイティブな活用を進めること、周辺農村との連携が肝であると喝破した。

## 2) 町並みゼミ名物・各地からの報告

新会員である台湾を含め、事例が報告された。真壁、竹富、鞆の浦など重伝建地区からの報告とともに、新潟、小諸、奈良まち、臼杵、行田、小川町、引田、など必ずしも伝建地区に指定されていない歴史都市で、さまざまな活動が取り組まれていることが報告された。